

タウンミーティング記録 未来へ向けて 今、ここから

日 時 令和6年11月17日(日) 午後2時～3時30分
場 所 江川会館（東久保町会・鶴ヶ舞一丁目町会）
参加者 35人



主な意見等

参加者 市長のお話を聞いて、いろいろな計画に基づき、市を運営してくれていることを知ることができて安心しました。市のことをいろいろ考えてくれており感動しました。

市 長 ありがとうございます。

参加者 亀久保小学校の東側、ファミリーマートの反対側のスペース内に、夏に歩く際に一休みできるベンチを設置してほしいです。

市 長 市内の公園や緑地等にトイレやベンチ等の設置について色々要望を頂いています。

現地は調整池内のため、すぐに設置しますとは言えない状況ですが、一休みするには良い場所だと思いますので、設置できるか調整していきます。

参加者 私は運転免許を返納しており、最近では入院もしてしまい車も自転車も乗れない状態です。

駅まで歩いて行く際に座るところが一か所もありませんでした。ベンチで一休みできるところが欲しいです。

市 長 普通の歩道に設置するのは難しいかもしれないが、公共的な敷地があればベンチを増やしていく考えを持っていきたいと思っています。

また、夏の厳しい暑さの時には、公園の近くを通った方が暑さを凌

げる一休みできるようなベンチ等の施設の設置を考えていきたいです。

参加者 温暖化について、ふじみ野市を冷やそうという発想で上福岡駅前に日陰を作ることも兼ねて太陽光パネルの設置を検討してはいかがでしょうか。

日陰を作りつつ電気も作り、ミストを噴霧する装置を設置して駅近辺の温度を下げるというような検討をしてみてもはいかがでしょうか。

また、大井浄水場の給水塔がもし地震等で壊れた場合、給水はどうなるのでしょうか。

市長 太陽光パネルの設置にはかなり費用が掛かり、発電して売電してもプラスになることは考えにくいです。

また、温暖化対策として公共施設にパネルを増やす取り組みはあり、国から事業者に対する補助金があるのでプラスになっていますが、独自に行くとマイナスになってしまいます。

構造物を作って日陰を作る際にパネルを設置する考えについては参考にさせていただきます。

給水塔につきましては、自然流下とポンプで圧力をかけて送っていますので、タンクがダメになったから全く水が行かなくなるという訳ではありません。

参加者 市内の外国人が多くなってきました。外国人の国別の人口把握について広報に掲載することはないでしょうか。

また、その子供たちの教育環境はどうなっているのでしょうか。

市長 市では外国籍の方が、どこの国の方でどの位在住しているかは把握していますが、広報には掲載していません。

外国籍の子どもたちの中には日本語が使えない子もいますが、義務教育では日本語教育以外には対応できません。

日本語が理解できない子供たちにはふじみの国際交流センターに協力してもらい日本語教育等をおこなっており、また親御さんも日本語が使えない場合は市内に日本語学校があるので通ってもらうこともできます。

また、親御さんも日本語がわからない場合は学校からの通知も翻訳しているところもある状況です。

様々な事情で来日する外国籍の方も多いため、ふじみの国際交流センターと通訳の方を通じて可能な限り協力できればと思っております。

す。

参加者 それはボランティアの方でしょうか？

市長 ふじみの国際交流センターはNPO法人で、そちらで言語を使えるスタッフを集めて行っており、市からも委託料を払っています。

参加者 市報で外国人の割合を載せる考えはありますか。

市長 皆様が知らないと不利益になる情報ではないと思うので広報に掲載する予定はありません。

参考までに割合は外国籍の方は人口の約3%で2,041世帯、3,610人です。

参加者 この地域では駐車違反になるため、訪問介護の車を少しの間でも駐車することが難しく、緊急車両が入って来られない状況になりますので、公共施設や商業施設の駐車場等にも訪問介護の車を無償で駐車できる施策を行ってほしいという要望です。

また、先日、私は総合防災訓練に参加しましたが、避難所に行ったらどういう訓練の流れになっているのかが分かりづらいつ感じました。

私は大学で勤務していて自治体とやり取りをして、避難所運営ゲームというものをお願いされており、小中学生に避難所に来たら何をすれば良いのかを教えています。若い人から取り組んでいけるような取り組みが良いのではないのでしょうか。

また、ふじみ野市のふるさと納税をどのように増やしていこうとお考えを持っていますか。

市長 ふじみ野市では県内でも稀なケースで全市的な総合防災訓練を行っており、各避難所ごとにそのエリアにある自治組織の方がどのような訓練を行うかを考えて行っています。

防災訓練といえば、学校のグラウンドにて行う劇場型の見せる訓練が多いのですが、ふじみ野市ではより実践に近づけようと色々な種類の訓練を地域の方々の意見を取り入れながら行っています。

提案していただいた若い方対象の避難所運営のゲーム形式のものなどは効果的だなと思いますので参考にさせていただきます。

また、ふるさと納税についてふじみ野市も取り組みは行っており、農産物がありますが地方都市のような目玉になるような名産品はないです。

そのような状況の中で、市内でバイオリンを作製している方がいる

ためバイオリンを返礼品に入れたところ反響もあったように特色的なものを出して工夫をしており、他自治体にならないような魅力的なものを見つけ力を入れていきたいところです。

また、訪問介護の車について、これは社会的な課題の一つだと思います。すでに周りの方々も協力していただいていると思いますが、大型商業施設など民間事業者の力を借りて優先的に止められるシステムをつくることも一つの手だと思います。

県や国、法律などのレベルで見直しをしていかなければいけないと感じています。

参加者 民生委員のリーフレットには委員の名前も電話番号も載っておらず代わりに市福祉課の番号が載っています。

民生委員の個人情報を出すのは嫌だというのは分かりますが、かわりのない一般の方は民生委員の名前も電話番号も分からない状態です。

各地域に配るものには載せてポスティングしてほしいです。

市長 ポスティングしたものが抜き取られる可能性があることや個人情報などの時代の流れ的に仕方がない部分もありますが、民生委員の連絡先を載せても構わない方に関しては記載するような選択制にできるようにしても良いかもしれません。

また、自力避難ができない要援護者の方々が、個人情報の関係から名前を書いてくれないということもあります。本来ならば急に民生委員を必要とする前に、民生委員の方で知っていただけるぐらいにしたいのですが、個人情報ということだけが独り歩きをしまして、自分は個人情報を漏らしたくないと言って、お年寄りの方が書かないということがかなりあります。

担当課とも今後の課題として話をしてみます。

参加者 小学生の見守り活動を20年近くやっていますが、最近は「止まれ」などの路面標示が消えているところが多いです。

この辺りは川越街道の抜け道で使われており、かなりの数の車が通ります。

民生委員さん等が何度か要望を出したそうですが受け取ってもらえなかったそうです。以前は表示の塗りなおししてくれていたと思いますが現在はどうなのでしょう。

市長 以前は予算もたくさんあったので、本来ならば表示を行わない道路

や私道にも引いていたことがありました。

しかし、現在は社会保障費も膨らみ、市の財源的が厳しい状況です。

表示が消えている箇所について詳細な場所を教えてください、塗りなおせることが可能な箇所ならば対応していきたいと思います。

参加者 総合防災訓練に参加しましたが、今年は東京電力に電源車の説明、去年は消防署による蘇生訓練でした。

参加者が知りたいことは避難所に行ったらどういう体制で受け入れてもらえるのかが知りたいと思いますが、今回の訓練ではそれが分かりませんでした。

避難した方の受け入れの流れについて説明をしてほしかったです。

市長 総合防災訓練前に各自治組織の方に、今年は市でどのような内容を行ってほしいかを確認してから訓練を行っているので、その調整がうまくいっていなかったのかもしれない。

今までも避難所での実際の流れについては訓練で何回も行っており、毎回同じことを行っているので別の訓練内容を行おうという意見もあるので、地域の要望に沿った訓練内容を行っています。

担当課である危機管理防災課に内容の確認をしていただければと思います。

参加者 震災が起こった際、避難所に来た方は市で把握できるかもしれないが、そこに行けない方々、例えば家が潰れてしまって下敷きになった人などの情報を収集する方法は市ではあるのですか。

また、ドローンや防災ヘリなど活用していち早く救助活動を行う対策を進めていただきたいです。

市長 避難所に来られる方は、自宅に住み続けることが難しくなった方々を想定しており、全ての住民を受け入れることは困難です。

また、市職員数 630 人の職員で対応しますが、災害は発生する時期、時間、季節によって被害状況は変わってきます。

市職員は消防等のように 24 時間体制で勤務体制を敷いている訳では無いので、平日ならば参集できる職員は多いですが、土日では参集できる職員数も違ってくるので、そのような情報を市が得るのは難しいです。

ドローンでは下敷きになった方を探すことは困難で防災ヘリは県が所有している機数が少ないので対応は難しいです。

震災時一番大事なことは自ら守らなければならない自助、守られた

命で力を合わせて地域で協力していく共助が重要です。

行政ができることには限界があります。

ですが一人でも多くの人命を救う方法を可能な限り考え出していかなければいけないというのは、私達に課せられた責務だと思っておりますので、最大限可能にしていきたいと思っております。